

## チームで勝ちとった 全国大会への切符

「昨年は全道大会決勝で敗れましたが、今回は優勝して全国大会への切符を手することができ本当にうれしかったです」と語る立野さん。昨年、チームが味わった負けの悔しさを忘れないよう、そのときの銀メダルを常に持ち歩き、『メダルの色を次こそ金に』と気持ちを奮い立たせていたそうです。

さらに、立野さんの兄は4年前、同部が初めて全国大会出場を決めたときのエース。主将としてチームを引っ張り、兄に続き全国大会に出場したい、という思いもあったと言います。

「全国大会出場を目指し、皆で練習に励みました。中高一貫校なのでメンバー同士一緒にいる年数が長い分、他学年同士の距離が近く、先輩・後輩の垣根を越えて互



▲全道大会優勝で喜びの笑顔を見せる軟式野球部のメンバー

いに意見を言い合えます。結束力はどこにも負けません」と力を込める立野さんは、チームの持ち味を『俊足を生かしたプレー』だと話します。

「全道大会では積極的に次の塁を狙う走塁で相手チームをかき回し、全国大会出場を決めました」。

### 受け継がれる思い

全国大会は1回戦を見事突破。続く2回戦は長野県・上田西高校に延長12回の接戦の末、1対2で惜しくも敗れてしまいました。強豪チームと互角の攻防を見せ、白熱の好ゲームにスタンドから大きな拍手が送られました。

「敗れてしまいましたが、チームの持ち味を発揮して全国レベルで戦えた、という実感があります。技術面はもちろん、集中力を維持するなど精神面も今まで以上に鍛えていくことで、後輩たちが来年も全国大会に出場し、今の自分達を超えて、優勝旗を持って帰ってきてくれるとうれしいですね」と話す立野さん。

これからの軟式野球部を引き継いでいく後輩たちに、チームの目標である『全国大会優勝』のバトンを繋げます。



KIRARI

北海道登別明日中等教育学校  
軟式野球部

主将 <sup>たつ の ゆう じ ろう</sup> 立野雄二郎さん

7月31日(日)、第61回全国高等学校軟式野球選手権大会北海道大会の決勝戦が小樽市で行われ、北海道登別明日中等教育学校の軟式野球部が、見事、4年ぶり2回目の優勝を飾り、全国大会への切符を手に入りました。

全国大会は8月24日(水)から29日(月)まで兵庫県明石市で開催。2回戦で惜しくも敗れてしまいましたが、延長戦にもつれこむなど、健闘を見せてくれました。

今回は、全道大会の優勝に向け日々練習を重ねてきた選手たちの思いや全国大会で感じた同部の今後などを主将の立野雄二郎さんに伺いました。

皆で懸命に戦った試合は、チームにとって大切な財産です。



平成10年、室蘭市生まれ。18歳。

小学校1年生から野球に親しみ、北海道登別明日中等教育学校に入学。現在、高校3年生にあたる6回生。同校の軟式野球部に所属し、二塁手として日々練習を重ねるほか、主将としても活躍し、チームを引っ張っている。